

薬剤の安定供給へ奮闘

佐世保市の医薬品卸売業

「東七」に入社して7年目。

薬剤の安定供給という使命を果たすため、現場を駆け回っている。

市内の病院や薬局など18カ所を担当。毎日全て訪問し、



「自分が担当で良かったと言ってもらえるようになりたい」と話す鹿野さん
=佐世保市瀬戸越4丁目、東七

次代を拓く
現場の若手たち

☆44

必要な薬剤を届けている。新製品の紹介や薬のパッケージ変更の案内なども行う。

取り扱う薬は約1万3千種類に上る。用途や効能などを医者や薬剤師に説明するが、自分よりも知識がある専門家を相手にする難しさを日々痛感する。分からないことは製薬会社に問い合わせ、正確な情報を伝えるよう徹底している。

県立長崎南高を卒業後、県立大で経済学を学んだ。医療に携わる仕事がしたいと思い就職先を探していたとき、地域密着を掲げる東七に目が留まった。ここなら地元に貢献できると思い、入社し

た。

20代は人当たりの良さとフットワークの軽さを武器に、がむしゃらに駆け抜けてきた。しかし30歳を前に、もう一段階レベルアップしようと決意。現在は「医療経営士」や「医薬経営コンサルタント」の資格取得を目指して勉強に励んでいる。知識を増やし、これまで以上に得意先に役立つ情報を提供できるようにするためだ。

「自分が担当で良かったと言ってもらえるようになりたい。得意先が円滑に業務を行えるよう、お手伝いができれば」。それがひいては、地域住民の命と健康を守ることにつながると信じている。

(湯村高大)

随時掲載します